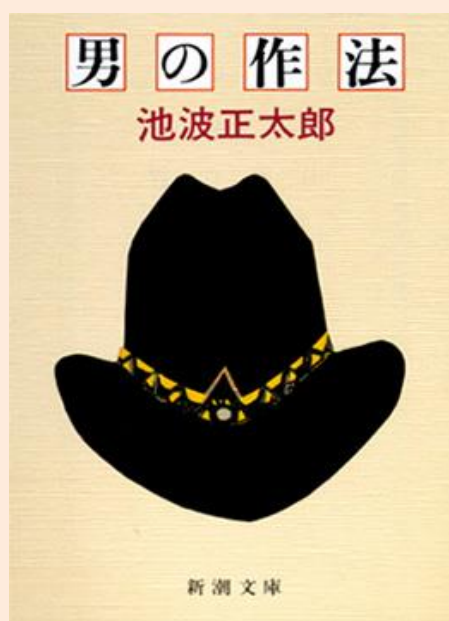


## 『男の作法』

新潮社 池波 正太郎／著

「てんぷら屋に行くときは腹をすかして行って、親の敵にでも会ったように揚げるそばからかぶりつくように食べなきゃ」…池波流おいしいもののおいしい味わい方である。昭和の男が見せかけや知ったかぶりを戒めながら、50余年の人生を通じて感じた、衣食住、人間関係、生き方などにおける「男のあり方」を語る。



本作は「鬼平犯科帳」シリーズなどで知られる著者の語りおろしだが、令和の今読んでみると新しい発見があるかもしれない。ほかにもエッセイを多数書いており、若い人はもちろん、どの世代の人も、読めば人生がもっと豊かになるだろう。